

定量的研究について（2）

1. 研究の実例：

「より効果的な語彙学習方略に関する研究—入門期の学習者に焦点を当てて—」三浦宏昭,

1) 研究の目的

- 単語を学習する際、()、()、()のうち、入門期の学習者にどれが最も効果的か。

2) 被験者

- 大分県内の公立中学校（ ）年生（ ）名（男子（ ）名、女子（ ）名）

3) 刺激材料

- 姉崎（ ）で使用された 語の中から（ ）語を選んで使用した。（ ）語と（ ）語を 語ずつ選んだ（文字数・音節数の平均が均等になるよう留意）。

4) 手順

- 被験者を6つの集団に分ける（ ， ， の3種類の学習法×直後テスト、遅延テストの2群）。
- 発音を5回ずつさせる→ 分間学習
- 英単語を見て日本語訳を答えさせるテストを実施。「直後テスト群」は学習直後、「遅延テスト群」は（ ）後に行った。

5) 結果

- 使用した統計分析の手法は（ ）。

		直後	遅延
	具象語		
	抽象語		
	具象語		
	抽象語		
	具象語		
	抽象語		

どこに差があるかを見た

- 有意だったのは以下の2つ

① 具象語 > 抽象語, ② 直後テスト > 遅延テスト

6) 考察

- 有意ではなかったが、()群が最も多くの英単語を学習していた。理由は「記憶研究の理論」、「テスト形式」、「品詞」、「単語の数」、「被験者の年齢」が考えられる。
- 群が低かったのは、中学 年生が()作業に慣れていなかったからかも。
- 直後テストでは「 > 」だったが、遅延テストでは「 > 」となった。 の方が学習の負担が軽かったので、記憶が長続きしなかったのかも。
- 具象語の方が抽象語よりも覚えやすい。

2. 研究計画の作成